



2023年11月7日
弘前市
JR東日本秋田支社

SDGsで切り拓く持続可能な「日本一のりんご産地」の実現に向け 弘前市とJR東日本は補助労働力確保支援の取組みを開始します

弘前市と東日本旅客鉄道株式会社（以下 JR 東日本）は、りんごの収穫期が人手を要するピークとなっていることから、職員や社員が副業またはボランティアでりんご収穫に携わることで農作業を支援する取組みを実施します。

弘前市は「日本一のりんご産地」を未来につなぐため、SDGs 未来都市宣言を行い「豊かな実りを 次へと紡ぐ 活力あるりんごのまち弘前」を 2030 年のあるべき姿と掲げ、JR 東日本は東北を訪れるきっかけづくり・産業づくり・くらしづくりを通じた新たな地方創生を目指す「東北の宝ものプロジェクト」のブランド『TOHOKU Relax』を冠した取組みを始動しています。

この度の取組みにより農作業における補助労働力を確保し、弘前市における持続可能なりんご産業の未来づくりを共に目指します。

1 取組みの背景

弘前市は 1875 年に初めて西洋りんごが植栽されて以来先人たちのたゆまぬ努力により「日本一のりんご産地」を築き上げてきましたが、近年は高齢化、担い手減少などにより、農業の担い手不足が大きな課題となっております。

このような課題に対し、弘前市（ひろさき農業総合支援協議会）は 2021 年に青森県内の自治体として初めて、民間企業・団体職員向けの兼業推進事業として、1 日農業バイトアプリ「daywork」を導入し、市職員向けとしては、りんご生産アルバイトの兼業推進事業に取り組みできましたが、最盛期には働き手がまだ不足している状況です。

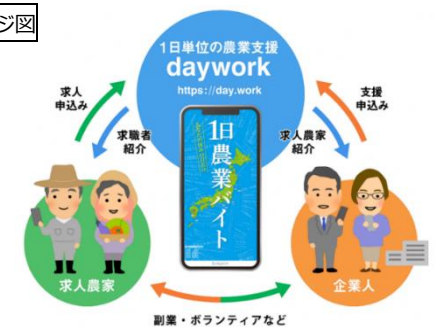
JR 東日本は地域貢献のため 2023 年度に「農業副業」を解禁し、他エリアにおいて 1 日農業バイトアプリ「daywork」法人向け利用機能を使った実証実験を実施していたことから、この度相互に連携することといたしました。

弘前市エリアにおいても自治体や企業の職員や社員による農作業参加を促進することで、生産者の補助労働力受入促進及び、受入環境の改善・強化をはかりつつ、次世代を担う意欲のある新たな担い手や補助作業員の確保・育成にも取り組んでいきます。

※ 1 1 日農業バイトアプリ「daywork」について

- ・ 1 日単位から農業で働きたい人と農家（生産者）をマッチングするスマートフォンアプリ
- ・ 副業やダブルワーク、空き時間の活用方法の 1 つとして農業に従事する選択肢を提供
- ・ 全国でのべ 82,000 人以上のマッチング実績（2022 年度）

取組みイメージ図



※ 2 法人向け利用機能について

- ・ 各企業は「daywork」の法人会員として登録
- ・ 法人会員の従業員は掲載された求人に対し、「副業」「ボランティア」を選択して応募が可能（* 企業により設定可能）
- ・ 法人会員の管理画面で従業員の副業先や副業時間数等を把握でき、労務管理の効率化が可能

法人会員機能（β版）イメージ



2 実施概要

- (1)目的： りんご収穫等、スポットでの労働力が必要となる農繁期作業について弘前市・JR 東日本の副業/ボランティアによる農作業支援を通じ、地域の人手不足解消を目指します。
また農家側が安心して外部の働き手を受け入れられるよう情報発信・環境整備等に取り組みます。
本取組みを通じ、自治体・企業の職員が地域における農業との接点を持つことで、農業に興味を持つ人材の育成を図るとともに、交流人口の創出など、持続可能なりんご産地継続の実現に貢献してまいります。
- (2)取組内容： 「daywork」に法人向け利用機能を実装し、自治体・法人の職員や社員が、副業/ボランティア等 1 日単位で農作業に参加できる環境を整備します。なお、2023 年 11 月から弘前市職員のりんご生産アルバイトの兼業においても、「daywork」を活用できる環境を整備し、今後の活用を見込んでいます。
この機能を弘前市職員や JR 東日本社員が利用することで、実際のマッチング数、参加側、受け入れ側それぞれの課題をアンケート調査で抽出するほか、「daywork」の法人機能を検証します。
- (3)期間： 2023 年 12 月末まで
- (4)実施エリア： 弘前エリア



3 参加者の役割・位置付け

- (1) 弘前市： 「daywork」アプリを活用した市職員のりんご生産アルバイトの兼業を推進
本取組への地域企業の参画に向けた勉強会の開催
働き手(企業従業員等)に向けた作業マニュアルの配布
- (2) JR 東日本： 「daywork」アプリを活用した従業員による農業支援への参画と、本取組みを通じた副業推進に向けた社内への情報発信

(参考)「東北の宝ものプロジェクト」について



- ・JR 東日本グループは、グループ経営ビジョン「変革 2027」で掲げる「地方を豊かに」の実現に向け、JR 東日本グループの資源を幅広く活用し、東北に訪れるきっかけづくり・産業づくり・くらしづくりを通じて、新たな地方創生を目指します。
- ・地域の皆さまとともに東北の未来づくりに取り組むため、このたび「東北の宝ものプロジェクト」を始動しています。
- ・新たなブランド「TOHOKU Relax」を掲げ、そのスタートとしてこのブランドを冠して東北に数多くある「宝もの」の情報発信を行い、国内外からの流動を促進します。